



2011 年 10 月 3 日  
社団法人 衛星放送協会  
会長 和崎信哉

### 新BSデジタル放送開始にあたり

今月 1 日から BS デジタル放送では新たに 12 チャンネルがサービスを始め、24 チャンネルとなりました。さらに来年 3 月には 7 チャンネルが加わり、合計 31 チャンネルになります。BS 放送において視聴者はより多くのチャンネルと向きあうことになり、放送事業者としての責任も大きくなります。そのためにも衛星放送協会としては、新規事業者の円滑なサービス開始が肝要と考えております。

また協会にとって、今年はとても重要な年と捉えています。それは視聴者の衛星放送への関心が高まり、3 度目のスポットライトが当たると言うことです。1990 年前後の衛星放送がスタートした頃を第 1 期とすると、BS デジタル放送開始の 2000 年 12 月から、その 3 年後の地上デジタル放送開始までを第 2 期、そして BS デジタル放送で 31 チャンネルが揃う今年から来年 3 月以降が第 3 期と言えます。つまり衛星放送に 3 度目のスポットライトが当たり、さらに飛躍できる時が来たということです。

しかしこのようにチャンネルが増加することで、視聴者の選択肢が増えると同時に、満足度の高い多様なコンテンツを提供し、視聴者を魅了させているか、ということが重要となります。有料・多チャンネル放送の普及にはケーブルテレビ業界や IPTV サービスを提供している事業者との協力が不可欠であり、協会自身による強力な活動も求められます。そのためには無料放送とはひと味もふた味も違う魅力あるコンテンツを提供しているかどうかを、常に自らに問いかけていかななくてはなりません。また衛星放送協会としては、今年は 110 度衛星放送の帯域整理が予定されており、同時に、一般衛星放送である CS 124 / 128 度の HD 化推進という課題も抱えています。

今年は、衛星放送全体が盛り上がり、各放送事業者がコンテンツの魅力を強くアピールし、有料・多チャンネル放送のプレゼンスがさらに飛躍できるように進めていきたいと、10 月 1 日を迎えてあらためて感じております。